

質問案 19/1/23

・はね出し架構について お尋ねします。

有識者会議の石垣部会は木造復元について、特に基礎構造である「はね出し架構」が問題だとしています。耐震性を増すために、天守台石垣をとりはずし、石垣内部の遺構を破壊した上でコンクリート製の「はね出し架構」を設置する予定とのことですが、天守台石垣は、名古屋市の調査で最上部まで江戸時代のものである可能性が判明しました。

18/11/2 石垣部会で千田嘉博・奈良大学教授は以下述べました。

「今後の進め方に『特別史跡の保存に影響を与えない基礎構造の検討 調査研究の結果を踏まえ、必要に応じて見直しを行う』とあるが、考え方が根本的に間違っている。

名古屋市で天守閣復元案をとりまとめたと同っており、どういうものかわからないが、少なくとも江戸時代の遺構を破壊する基礎構造である『はね出し架構』は断じて認めないし、一般論として文化庁も認めないだろう。

現実離れしている。何回も部会・ワーキンググループで指摘し、文化庁でも指摘されているのになぜ残っているのか。名古屋市は本当は木造天守閣を建てるつもりはないのか。

そこで質問です。竹中工務店に対し、耐震性を考慮した場合、はね出し架構なしでの木造建築が可能と考えていますか。はね出し架構を付けざるを得ない場合、石垣部会の先述の指摘はどう考えていますか。

それを踏まえた上で、名古屋市に対して、竹中工務店の提案であるはね出し架構についてどう思っていますか。「耐震性」と「遺跡を破壊しない」を両立させることは可能と考えていますでしょうか。

名古屋市は、「石垣部会が石垣について指摘している」とするだけで、具体的にどのような指摘なのかを説明しません。石垣部会からの指摘に誠実にお答え下さい。

・今後のスケジュールについてお尋ねします。

名古屋市は、2018年10月の文化審議会での了承を断念しました。

ところで、名古屋市は「建築基準法の適用除外を受ける予定」と繰り返し述べていて、今後1/29に建築審査会が行われる予定ですが、いまだに議題に名古屋城が上がってきません。

また、18/9/21名古屋市議会本会議で浅井正仁市議（自民）が名古屋城天守閣木造化のスケジュールが遅れていることについて質問し、広沢副市長は「2018年10月の文化審議会に諮らなかつた場合におきましても、文化庁から指摘された課題を解決し、できるだけ早期に現状変更許可の見通しを立て、その段階で優先交渉権者と協議し、2022年12月の木造復元天守閣竣工スケジュールを守るよう努力してまいりたいと考えていることから、現時点において竹中工務店と具体的な協議は行っておりませんので、御理解賜りたいと存じます。」と答弁しましたが、結局、2018年10月の文化審議会には諮りませんでした。

それどころか、18/12/28 バリアフリー検討会議終了後の西野所長の記者会見では、記者から「2022年に完成する見通しが立っていない状況だ。机上の空論ではないか」との質問に、「見通しは立っていないが、目指してやっている。それを見据えてバリアフリーの対策も取っていこうと考えている」としました。

竹中工務店に質問します。いつ建築基準法の適用除外を受ける予定と理解していますか。いつまでに適用除外を受けないと、実際の建築が始まらないと理解していますか。また、現時点において、名古屋市と竹中工務店は、基本協定13条などに基づき完成時期について協議しましたか、その結果はどうなのか。

続いて名古屋市に対し、いつに建築審査会にかけるつもりなのか、現在の見通しを聞かせていただきたい。また、現時点で2022年に完成する見通しは立っているのか、西野所長にお聞かせいただきたい。さらに、基本協定に基づき竹中工務店と完成時期について協議したのか、その結果はどうなのか。市長以外の人にお答えいただきたいです。

・費用についてお尋ねします。

基本協定では、建設費用の上限は税込みで総額 505 億円としているが、基本設計で具体的な費用が明らかになった段階であらためて交渉し、合意できない場合は契約が不成立になるとしています。

ところが基本設計は終わったとしていますが、具体的な費用がどうなるのか示されていません。当初の案にあったエレベーターや防火区画に避難階段を設ける案も取りやめるとしており、その分費用はどうなるのか？ハイテク部分がなくなれば、もっと安くなるのではないか。

1月18日に、「名古屋城天守閣整備事業に係る価格交渉等について」があり、学識者から意見を聴取するとありますが、非公開で行われたため、内容は市民には全くわかりません。

まず竹中工務店から、現在の状況のご説明をお願いします。

・石垣調査や工事の予算提案についてお尋ねします

名古屋市は、2018年10月の文化審議会での了承を断念しました。

それ以降、全体のスケジュールはいまだに公表されていません。

当初の案では2018年9月に仮設素屋根見学施設の予算要求、2018年11月に現天守解体予算要求がなされる予定でしたが、いまだに予算要求されていません。2019年度当初予算にも要求されていません。穴蔵石垣調査についても、予算どころかなにをどう調査するのかもはっきりしていません。

2018年10月30日に開催された、名古屋市議会経済水道委員会では、新井主幹が「スケジュールのことですが竹中工務店さんとはですね、下請け等の調整があるというようなこともありまして、現状変更許可の見通しが立たない今の現状におきましては具体的なスケジュールというものがですね検討するのはなかなか難しいというふうに聞いておりまして、現時点ではお示しすることはできないという状況でございます。」と答弁しています。また、2019年5月に文化審議会の了承を得たとしても、西野所長は10か月程度工事が遅れると述べています。

そこで竹中工務店にお尋ねします。2018年10月文化審議会での了承を断念以降、現時点での具体的スケジュールは検討していますか。名古屋市と竹中工務店は、基本協定13条などに基づき完成時期について協議しましたか、その結果はどうか。

その後、名古屋市にも同じ質問、現時点での具体的スケジュールは検討していますか。名古屋市と竹中工務店は、基本協定13条などに基づき完成時期について協議しましたか、その結果はどうかをお尋ねします。

・入場者数予測についてお尋ねします。

19/1/22 説明会で、竹中工務店は「避難安全性を考えると、最上階に上がれる人数はおおむね 100 名を検討している」と述べました。

しかし、2018 年 7 月 19 日に開催された天守閣部会配付資料では、1 時間 2500 人来城者の計算で在館者密度を均一にすると、最上階には 136 人と試算されています。

<http://www.nagoya.ombudsman.jp/castle/180806-1.pdf>

竹中工務店が試算するように、最上階に 100 人しか登れなければ、想定していた 136 人から約 26.5%減となります。そうであれば、1 時間 1838 人、1 日 14700 人しか最上階に登れない、という計算になるのではないのでしょうか。

仮に 4 階で大量の人が滞留すれば、非常時にはより危険になります。もしくは最上階に登れないとして、4 階まで登っても、5 階に登らず降りることにもなりかねません。

危険さを減らそうとすると人数制限が必要となり、入場料収入のみでまかなうという収支計画が狂います。

竹中工務店に質問します。最上階に 100 名の試算の場合、1 時間当たり、1 日当たり城全体で最大何人の来城者数を見込んでいますか。4 階に滞留することは計算に入れていますが。最上階に登れない人を試算に入れていますが。

次に、名古屋市に対し、最上階に 100 名試算の場合の収支計画は試算していますか。入場者数が約 26.5%も減少した場合、入場料収入だけで到底まかなえないと考えますが、いかがでしょうか。全員が最上階に登るという試算を今後も続けますか。

名古屋市は「エレベーターに代わる新技術」なるものを募集するようですが、新技術を使うと、より入場者数が減るのではないかと危惧します。